

「カスミコシヨテンジュ」―男が分からない禍

解説

テンジュ科

危険度：★★★★★

生息数：☆☆☆☆☆

生態

カスミコシヨテンジュは不思議な生態を持つテンジュ科の中でも更に不思議な生態を持つ禍である。まずこの禍は見る人間の性別によつてその容姿と生態を変える。容姿はどちらの性別から見ても渦を巻く大木のように見えるが、その巻く方向が逆に見えるという。本項では女性から見たカスミコシヨテンジュの生態について解説する。

この禍は女性に「弱さ」を与え、また男性を理解できなくしている。そうして理解し合えないストレスを摂取しているのである。

女性の持つ「弱さ」とは一般的な概念より更に深刻なものである。力関係を比較した上での「弱さ」ではなく、存在として「弱い」のである。つまり「弱い」ことを前提としてその他全ての脳が働いているということになる。

まず女性は「弱い」ので戦いを避ける。「弱い」のに好戦的な存在など進化の過程で淘汰されてしまうのは目に見えていいる。これは女性同士の間でも変わらず、同性同士の（目に見える）争いは男性に比べて少ない。争いを避けるため、女性は「信念」を曲げることに對する抵抗を元々あまり持っていない。

次に「弱い」ので「飾る」という概念を持ち合わせている。自分以外の存在を「自分を強化できるものかどうか？」という目線で見える能力を持つのである。このように「弱さ」を持つことによつていくつかの特徴を備えているが、これらは男性にはない特徴である。女性にとつてこれらの特徴は当たり前以前の前提であるため、それを持たない男性を理解できないのである。女性から見れば男性は謎に好戦的であり、謎に信念を曲げ

ず、謎に自身の強化に興味を持たない存在なのである。

対処法

男女の不理解というものは実はそれほど男女の関係性に大きな影響を与えるものではない。その不理解を前提とした関係を築けるように脳が働いているからである。ただしその不理解が問題になる場合があり、それが親子関係である。特に母親と息子の関係性はいくつかの重大な危険性を孕んでいる。母親から見れば息子の好戦的な特徴は理解できず、信念を曲げて和を大事にしろと教えたくなるものなのである。また自分がするように息子を強化することも多い。習い事をさせたり学歴を求めたり、着飾らせたりもする。これらと息子から見た女性への不理解が重なり、重大な誤解を引き起こす場合がある。

